

令和4年度

# 品川区立 伊藤学園

研究主題

「義務教育学校において、

児童・生徒の資質・能力を効果的に伸ばす指導法の工夫」

— 指導と評価の一体化を図った授業改善 —



**「義務教育学校において、児童・生徒の資質・能力を効果的に伸ばす指導方法の工夫」**  
 ～ 指導と評価の一体化を図った授業改善 ～

今年度も教科分科会・市民分科会・前期課程の分科会・一人一本以上の研究授業と取り組んできました。1～9年の発達段階や各教科で身に付けさせなければならないことの系統的理解の上に、しっかり定着させる指導法の工夫改善、タブレットなどのICTの活用も入り、なかなか難しい面もありました。

『指導と評価の一体化』について学習指導要領で目指すねらい、いかに評価するかについて、単元や各時間のねらい・評価規準・基準にのっとった観点の達成状況の見取り方・計画的な資料収集の収集・整理など再度学びました。各自の教材研究はもちろん、学年や教科部会で教科・市民科の授業改善に向けて指導案を検討し、授業に臨み、協議をもちました。まだまだ十分とは言えません。指導と評価の一体化・評定、所見についても全学年で今後も考えていきます。

今年度も講師の先生方に具体的なご指導をいただきましたことに感謝します。

今後も真摯に学ぶとともに児童・生徒に力を一層付けられるように努力・精進していきましょう。

校長 蜂屋 隆子

## 研究の概要

### ①主題設定の理由

本校では、義務教育学校の特性を生かし、1年生から9年生まで系統的な教科指導を目指し、研究主題を「義務教育学校において、児童・生徒の資質・能力を効果的に伸ばす指導法の工夫」とした。研究主題をもとに教科ごとに研究構想図を作成し、各教科で研究を深めている。また、学習指導要領改訂に伴い、さらなる学習評価の充実を目指し、副主題を「指導と評価の一体化を目指した授業改善」と設定し、3年間かけて研究を進めていく。

### ②研究方法

年間3回の研究授業

- 教科分科会による研究授業（社会・数学）
  - ・ 市民分科会による研究授業
  - ・ 前期課程分科会による研究授業
- 一人一本の略案付き研究授業

## 研究組織

### 分科会構成

日程 学年	6月 研究授業①								9月 研究授業②	2月 研究授業③		
1年	国語	算数・数学	理科	社会	英語	図・美・技・家	音楽	体育	特別支援	市民科 (特別支援)	(低学 市民科 団)	1・2年 分科会
2年												3・4年 分科会
3年											(中学 市民科 団)	5・6年 分科会
4年												
5年												
6年											(高学 市民科 団)	
7年												
8年												
9年												

# 研究授業① 教科分科会

## 社会

教科分科会テーマ

「発問や課題を通して主体的な活動を促す指導の工夫」


### 分科会テーマを実現するための手立て

- ・ 主体的な思考を促すための教材研究
- ・ ICT・タブレットを活用した授業展開の推進
- ・ 話し合いや意見交換の機会の充実
- ・ 学習の成果の振り返りやまとめの時間の充実
- ・ 指導改善に生かすための評価の充実

### 目指す児童・生徒像

- ・ 社会的な見方・考え方を働かせ、表現したり発表したりできる児童・生徒
- ・ 課題や問題に対して、粘り強く主体的に取り組むことができる児童・生徒

## 実践内容

学年	8年	指導者	稲員 聡太
単元名	ユーラシアの動きと武家政治の変化		
本時のねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 勘合貿易の特徴を理解する。</li><li>・ 勘合貿易が行われるようになった背景について学び、日明貿易が行われた理由を考察する。</li><li>・ 「倭寇と明軍の戦い」の絵を詳しく読み取り、歴史的事象に関して自分なりの答えをもつ。</li></ul>		
学習内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 14世紀に入り明が成立したことと、明の特徴を理解する。</li><li>・ 勘合貿易とは、どのような貿易かを考え、理解する。</li><li>・ 倭寇とはどのような存在であったのかを史料から読み取り、倭寇と勘合貿易のつながりを理解する。</li><li>・ 日明貿易が行われた理由を考える。</li></ul>		

### 【成果】

- ICTを活用し、生徒が主体的に取り組むことができる課題を設定することができた。
- 地図や史料などの視覚教材に関して、生徒の主体的な思考を促すための教材研究を行うことができた。

### 【課題】

- 学習を振り返るまとめの時間を十分に設定できるように、時間配分を見直していく必要がある。
- グループでの話し合い活動において、生徒により活動の質に差が出てしまった。充実した活動になるように、グループ編成や意見交換の仕方を検討していく必要がある。
- ロイロノートの成果物から生徒の主体性を見取ることができたが、より主体的な活動を促していくための授業改善にどのようにつなげていくか検討していく必要がある。

## 算数・数学

### 教科分科会テーマ

「3観点評価の適切な評価方法と児童・生徒の学び合いを重視した効果的な指導方法の確立」

### 分科会テーマを実現するための手立て

- ・すすんで考えたい教材の工夫
- ・問題解決のプロセスを意識させる工夫。
- ・ICTの活用。（eライブラリの個別課題設定やロイロノートでの意見共有等の活動）
- ・少人数指導の効果を高める、前期課程・後期課程の枠を超えた教員間の指導観の共有
- ・主体的に学習に取り組む態度を適切に評価するための方法の検討・共有

### 目指す児童・生徒像

- ・すすんで自己の課題に向き合い、それらを克服するための手立てを深く考える児童・生徒
- ・様々な場面で積極的に自らの意見や考えを周囲と共有し、学び合う活動の中で課題の解決を目指す児童・生徒

## 実践内容

学年	8年	指導者	岩田 健吾
単元名	2章「連立方程式」		
本時のねらい	・数量の関係を図に表し、図の操作との比較から連立方程式の効率的な解法を見出すことができるようにする。		
学習内容	<p>◎数学を用いて家族にサプライズをしよう!!! 「2つのお店で赤いカーネーションと黄色いバラが売っている。どちらのお店の方が、単価が安く、お得か調べてみよう！」</p> <p>・実際に求めるために表を用いるが、扱う数が大きいと表での処理が難しい。モデル図で説明することで可視化され、実際の操作を通して、課題解決方法を探る。</p> <p>・モデル図での説明では、場合により相当な数のモデルが必要となり、有用性に欠ける。</p> <p>・ここで、図での操作を2種類の未知数 <math>x</math> , <math>y</math> を導入し、連立方程式の解法と結び付け、計算式にすることで、効率性を向上させ、連立方程式の有用性を実感させる。</p>		



### 【成果】

- 座席やグループを指定せずに自由に意見交換ができるようにしたことで、より他者との考えの違いに触れさせたり、問題解決のプロセスの多様性を意識させたりすることができた。
- 多くの生徒が『学び合い』の形式をとることによって、積極的に自らの意見や考えを周囲と共有することができ、課題を解決しようとする力の向上につながった。
- ICT（ロイロノート）を活用し各班の考えを共有したことで、比較・検討がしやすくなった。

### 【課題】

- 自発的に意見を共有することが難しい生徒に対しどのように意見の共有を促していくか、検討していく必要がある。
- 自己の課題を認知し手立てを考えるうえで、自力解決に必要な時間をどのように設定していくか考えていく必要がある。
- 生徒が活動する様子から主体性を読み取ることができるが、主体的に学習に取り組む態度の評価をどのようにしていくか、教員間で共有していく必要がある。

## 研究授業② 市民科分科会

市民科分科会テーマ

「豊かな人間関係を築くためのコミュニケーション能力の育成」

本校の研究主題「児童・生徒の資質・能力を効果的に伸ばす指導法の工夫」にある“資質・能力”の中でもコミュニケーション能力に重点を置き、市民科の学習として、この能力を高めるための工夫をしていくことが大切であると考え。市民科で培った能力を、各教科で活用し伸ばすこと、または各教科で必要としている能力を市民科で身に付けることが、本校の研究をより深めていくと考え、分科会テーマを設定した。

### 低学団分科会

学年	2年	指導者	三葛木 栞
単元名	だれとでも なかよく		
領域	自治的活動領域	能力	社会的判断・行動能力
単元のねらい	誰とでも分け隔てなく、接することができる。		
本時のねらい	前時までを振り返り、自分の調べた国やほかの国のよさに気付く。		
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの活動を振り返り自分が担当した国と旅行した国のよさをカードに書く。</li> <li>・各グループでペアを2組つくり、よさを書いたカードをもとに、他のグループとそれぞれの国のよさを伝え合う。</li> <li>・よさを書いたカードを、各グループのパネルに貼る。</li> <li>・他のグループからもらったカードを見ながら、自分が担当した国のよさを再発見する。</li> <li>・活動を通して気付いたことや、もっと知りたいことなどを発表する。</li> </ul>		
成果と課題	<p>○互いの国のよさを伝え合う活動を通して、「行ってみたい」「すてきだな」といった前向きな気持ちをもつことができた。</p> <p>●よさを書いたカードをもらったときに、何を言ったらよいか迷っていた。語彙力をさらに身に付けることで、伝え合う活動がより深いものになるよう指導していく。</p>		




### 中学団分科会


学年	5年	指導者	浦野 翔
単元名	賛成・反対の立場をはっきりさせよう		
領域	人間関係形成領域	能力	コミュニケーション能力
単元のねらい	テーマを正しく捉え、賛成・反対の意見を言うことができる。		
本時のねらい	自分の意見を持ち、自分の意見を相手に伝えることができる。		
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童とともに考えた議題についてディベートを行う。</li> <li>・自分の考えをまとめておくことやほかの人の意見をよく聞くこと、話すときは結論から話すことを確認する。</li> <li>・相手の意見を受け止めながら自分の意見を発言する。また、意見を裏付ける理由についても発言する。</li> <li>・ディベートについて肯定的な振り返りをする。</li> </ul>		
成果と課題	<p>○安心して発言する環境づくりができたので自分の意見を持ち、積極的に話す児童が増えた。また、相手の意見を受け止める姿が見られた。</p> <p>●テーマによっては、うまく意見をもてない児童がいた。また、議題に沿わない意見が出ると、議題から自分の考えがそれてしまうので、話を修正できる司会が必要であった。</p>		



## 高学団分科会

学年	8年	指導者	浅香 圭祐
単元名	互いを尊重した対応		
領域	人間関係形成領域	能力	コミュニケーション能力
単元のねらい	互いを尊重した考え方や対応の仕方を身に付ける。		
本時のねらい	自分も相手も尊重した話し方や対応方法を考える。		
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アサーションスキル、アンガーマネジメントについて以前学習したことを振り返る。</li> <li>・掃除の事例に関して、どのような感情を抱くか様々な視点で考える。</li> <li>・3つの表現方法を確認する。</li> <li>・アサーティブな表現はどのようなものかを考える。</li> <li>・ロールプレイを行う。</li> </ul>		
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な感情があることを知り、それらの感情を考えることができた。</li> <li>○様々な感情がある中で、アサーティブな言動が大切であると気付くことができた。</li> <li>●その後の学校生活でアサーティブな言動を心掛けているかを見取ることが大切である。生徒それぞれの行動に注意を払い、指導に生かしていく。</li> </ul>		

## 特別支援分科会

学年	ひまわり組（1～6年）	指導者	笠原 祐紀 矢澤 雅弘
単元名	「思いやりの心」をもとう		
領域	人間関係形成領域	能力	集団適応能力
単元のねらい	相手に対する思いやりをもって、互いに関わり合うことができる。		
本時のねらい	思いやりの心をもった行動を考え、ロールプレイで行うことができる。		
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いやりの心の大切さについて、前時の学習を振り返る。</li> <li>・様々な場面絵を見て、思いやりの心をもった具体的な行動について考える。</li> <li>・ロールプレイを行う。</li> <li>・日々の生活の中でも思いやりの心をもった行動をすることが大切であることを確認する。</li> </ul>		
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ロールプレイを取り入れたことで、実際に自分たちが考えた行動が相手にどのように伝わるのかを実感させることができた。</li> <li>○普段の生活でも思いやりの心を意識して行動する児童が増えてきた。</li> <li>●個別指導計画につなげ、児童の成長をいかに見取るかが大切である。家庭とも連携を取りながら、学校と家庭とで成長やめあてを共有し、指導に生かすようにしていく。</li> </ul>		

## 研究授業③ 前期課程分科会(国語)

教科分科会テーマ

「自分の思いや考えを相手に伝える表現力の育成」

### 分科会テーマを実現するための手立て

- ・ 1・2年生…伝え合うために、自分の考えをしっかりともてる教材に工夫をする。
- ・ 3・4年生…日常的に書く活動を習慣付ける。
- ・ 5・6年生…自分で選べる思考ツールを工夫する。  
言葉に着目した活動・グルーピングの工夫をする。

### 目指す児童・生徒像

- ・ 自分の考えをしっかりともち、表現できる児童
- ・ 書く活動を通して、自分の思いや考えをまとめることができる児童
- ・ 主体的に学び、自分の思いや考えを相手に伝えることができる児童

## 実践内容

学年	3年	指導者	西條 洋平
単元名	読んで感想をもち、つたえ合おう 「ありの行列」		
本時のねらい	・ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。		
学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習のめあてを確かめる。</li> <li>・ 2～3人のグループ内で、感想を発表したら他の人は感じたことを伝え合う。</li> <li>・ ロイロノートで他の友達の感想を読む。自分と同じ感想を書いているところにはピンク、違う感想なら青を背景としたロイロノートのテキストに書き、思ったことを伝える。</li> <li>・ 友達の感想と自分の感想を比べて、気付いたことを発表する。</li> </ul>		



### 【成果】

- 日常的に、ロイロノート上で児童が提出したものを評価していたことで、自分の意見をもつことが難しい児童が想定でき、必要な手立てを考えることができた。
- ロイロノートで友達の感想を読んで感想を送るなど、普段あまり発言しない児童であっても、自分の思いや考えを相手に伝えることができた。

### 【課題】

- ロイロノートの打ち込みに時間がかかり、感想を伝え「合う」ところまでいけなかった。感想を読んだ際に共通点と相違点に線を引く、鉛筆で書いて撮影できるワークシートを作成するなど、伝え合いを実現するための支援の仕方をより一層考える必要がある。
- タブレットの活用が、果たして日常的に「書く」活動と言えるのか、疑問が残る。アナログのよさとデジタルのよさについてさらに吟味し、どのように「書かせる」のかを考える必要がある。

## 研究の成果と課題

### 【成果】

- 各教科において児童・生徒を見取るための様々な評価方法を実践したことで、児童・生徒一人一人の実態に合わせた手立てを考えることができ、児童・生徒の資質・能力を伸ばすことができた。
- 各教科分科会に前期課程・後期課程の教員が所属し、研究授業の実施・協議会での意見交換等を通して、教科の系統性を意識した授業実践につなげることができた。
- 市民科分科会では、研究主題に沿った分科会テーマを設定したことで、市民科の授業実践での成果を他の教科へと広げていくことができた。
- 教員全員が研究テーマに沿った研究授業を行ったことで、指導力の向上につなげることができた。

### 【課題】

- さらに評価と指導の一体化を図っていくために、効果的な授業改善の方法について各教科部会で検討していく必要がある。
- 各教科分科会で指導案検討の時間を十分に設定することが難しかった。前期課程・後期課程の教員を含めた教科分科会での効果的な指導案検討の仕方を考えていく必要がある。
- 校内研究での学びを普段の授業実践に生かしていくために、教員の研究に向けての意識をさらに高めていく必要がある。

おわりに

副校長 中野一宏

令和3年度から3年間副主題を「指導と評価の一体化を図った授業改善」として始めた校内研究の2年目。講師の先生方に直接授業を見ていただいて指導講評を受ける日常が戻ってきました。児童・生徒の学習改善、教師の指導改善につながる評価を行うことで、指導と評価のPDCAサイクルを回していくことを目指しました。奥が深く、まだまだ学び実践していく必要があることを痛感します。来年度で一区切りとなりますが、今後も実践を基に研究を積み重ねていく所存です。

最後になりましたが、研究を進めるにあたり、ご多用の中ご来校いただきました講師の先生方や品川区教育委員会の皆様からご指導やご助言ご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 今年度ご指導いただいた講師の先生

小泉 和博 先生	田園調布学園大学 人間福祉学部 心理福祉学科 教授	社会科分科会 研究授業
武田 恵美 先生	東京都教職員研修センター 研修部 教育経営課 指導主事	算数・数学科分科会 研究授業
梶 千枝子 先生	東京都教職員研修センター 授業力向上課 教授	市民科研究授業 (低学団分科会)
森下 久仁子 先生	品川区立八潮学園 副校長	市民科研究授業 (中学団・特別支援分科会)
青木 経 先生	教育総合支援センター相談支援担当 HEARTS 品川学校支援チーム	市民科研究授業 (高学団分科会)
江森 利公 先生	元港区立芝浦小学校 校長	前期課程分科会(国語) 研究授業

